

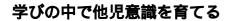
## 子どもの人間関係づくり

2004.10月

## 心ほぐしが必要な仲間

ある研修会に呼ばれて行った。「体育に体ほぐしがあるように,特別活動には心ほぐしが必要です。」と言われ,なるほど最近は,ほぐしが大切なんだと思っていたら,じゃんけんをして,負けた方が自己紹介をするというゲームが始まった。また,7~8人が円形になり,両方の人差し指を胸のあたりに差出した所にフラフープがのっかった。みんなでこのフラフープを床に下ろすのが,次のゲームだった。どれも,急な必然性がともなった課題を仲間でクリアーしていく手法である。場が急に賑やかになり,あちこちから笑い声が聞こえ,笑顔が見えてきた。

次のグループも違うゲームを紹介され,集会活動に便利だと力説されていた。学級開きにも使えるらしい。確かに場は和む。多くの学級に,このゲームを取り入れた人間関係づくりの実践が,報告されている。これらのゲームで,好ましい人間関係づくり一助にはなっても,本当に人間関係が円滑になるんだろうかと,どうしても懐疑的になる。ゲームで望ましい関係が築くことができれば,これほど楽なことはない。どこかの職員室で使ってはと,思いたくなる。



現代の大人の世界も子どもの世界も,複雑な関係で絡んでいる。 これらのゲームや人間関係づくりのプログラムで,縺れた関係を緩 めることはできても,そんなに簡単に解きほぐすことはできない。

眼前の子どもを丁寧に見てみよう。遊んでいる子どもたちを観察してみよう。自分の気分で他児とかかわったり,他児を自分の遊びの助手のようにしたりしていないだろうか。子どもと親,大人の間の上下関係の中では甘えもあるが,仲間との関係は,平等が基本で甘えが許されない厳しさがある。他児を仲間として受け入れ,仲間の存在自体を認める段階を重視し,できるだけ早く対等な関係を築くことが必要である。そのためには,多少のトラブルはあっても,本物体験を充実させ,本音と納得の世界をたっぷり体得させたい。子どもたちが自らの体験を通じて,他児を理解しようとする場を増やすことが大切である。



